



平成24年
11月14日取材

牛久市 たまり場 たまりん

「こんにちは～」「椅子、並べますね」「準備はいいですか？」…ここは牛久市の閑静な住宅街の中にある、区民館。たまり場『楽しく身体を動かし、楽しく語らう集い『元気で長生き』』の皆さんが、毎週集まり、マットや椅子、エアロビックステップ等を使用した、年齢にあった運動を行なっています。気持ち良い汗をかいたあとは、皆さん楽しみにしているお茶の時間。美味しいお菓子と楽しいお喋りに時が経つのも忘れそうです。

この、たまり場『元気で長生き』を支援しているのが、今回ご紹介する“市民がつくるたまり場グループ『たまりん』”の皆さん。『たまりん』は牛久市社会福祉協議会が平成20年に企画した『市民参加による住みよい街づくり』をテーマとした団塊世代による協働講座の受講者の方々が、講座終了後に作った、たまり場作りの実践活動を行なうグループです。翌

平成21年には、たまり場第一号の『お茶の間カフェ』を、平成22年には『元気で長生き』を開設しています。

「地域住民の関係が希薄になっている現代、

マンション内の住民同士が知り合い、助け合う環境づくりの必要性を感じ、マンションのゲストルームで週に1回住民同士が自由にお茶をしながらお喋りができる『お茶の間カフェ』を作りました」とは『たまりん』代表の菅沢純さん。『お茶の間カフェ』はマンションの住人であり、『たまりん』のメンバーでもある上玉利滋子さんが代表を務めています。『お茶の間カフェ』はマンションの皆さんのが楽しく集いの場となり、楽しい会話のなかで、牛久市歴史散策、ホタル狩り、ヴァイオリンコンサート等の楽しい企画を計画し、実施しています。現在は、住人同士の挨拶も会話のある挨拶に変わり、マンション夏祭りを開設するまでになりました。「昨年の震災の時には、ご両親が帰宅難民になってしまったご家庭や、上層階のご家庭が

ゲストルームに避難して、みんなで協力して大変な局面を乗り越えました。住民同士の密なコミュニケーションと信頼が成り立っていたからできたことだと思います。

一方、冒頭で紹介した『元気で長生き』は、牛久市主催の体力アップ運動講座が終了し、その運動を続けたいと考えた参加者で作ったたまり場です。代表は、やはり『たまりん』メンバーの柳館さん。「私たちの場合は、運動器具を使うのでその購入や管理が問題となりました。運動器具は『たまりん』が牛久市社会福祉協議会からのアドバイスを受け、茨城県共同募金会に地域福祉特別助成金を申請し、これが無事通り、購入が出来ました。また、サロン開設時は運動器具を会員宅で保管し区民館へ持ち込んでいたのですが、現在は区民館の倉庫で保管してもらっています。これは、私たちの住民の皆さんへの“楽しい汗を流しましょう…”の呼びかけを行政区が評価してくれたものと思っています」

現在、『たまりん』の集まりは、牛久市社会福祉協議会内の一室で行なわれています。「牛久市社会福祉協議会の方が困った時にはアドバイスをくれたり時には出向いてくださり、私ども『たまりん』は各たまり場へのアドバイスや事務手続きのお手伝いなどをし、各たまり場は自分達で会を運営していく、という流れです。今後はもっとメンバーを

増やして、地域に必要なたまり場のサポートをしていきたいと考えています」と菅沢さん。まさに、たまり場づくりの希望となる、『たまりん』の活動でした。



楽しく身体を動かす「元気で長生き」のみなさん



サロンを愛するメンバーのみなさん

いばらきの社会福祉

Social Welfare of Ibaraki



環境に配慮して再生紙と大豆油インキを使用しています

発行者

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会

〒310-0586 水戸市千波町1918

TEL.029(241)1133(代) FAX.029(241)1434

<http://www.ibaraki-welfare.or.jp/>

E-mail ibashakyo@ibaraki-welfare.or.jp



携帯電話で読み取るだけで
簡単に「茨城県社協HP」に
アクセスできます